

第十三歌 オデュッセウス、パイエケス人の国を発ち、イタケに帰還

[オデュッセウス](#)は[パイエケス](#)人の国を発ち、無事[イタケ](#)の島へ着いた。[ポセイドン](#)は怒って、彼を送った[パイエケス](#)人の船を石にして沈めた。オデュッセウスは海辺で[アテナ](#)に会い、求婚者を討つ手立てを協議した後、乞食の姿に化けることになった。アテナは[テレマコス](#)を呼ぶため[スパルタ](#)へ向かった。

内容

オデュッセウス故郷へ出発する [オデュッセウス](#)が語り終わると広間は静まり返った。[アルキノオス](#)はさらなる贈物を一同に提案し、皆は就寝のため家に帰った。翌朝、皆は贈物を船に運びこむとアルキノオスの屋敷へ行き、宴を開いた。宴に一日は過ぎ、やがて日が沈んだ。オデュッセウスは海辺へ向かい、船に乗りこみ、出発した。

オデュッセウス故郷に着く 船は走り続け、夜が明ける頃、[イタケ](#)の島に近づいた。島には[ポルクュス](#)の入江と呼ばれる港があり、その奥にはニフの聖域である洞窟があった。船員たちは入江に船を入れて、眠ったままの[オデュッセウス](#)を砂浜におろし、贈物の数々をオリブの樹の根元にまとめると国に帰っていった。

ポセイドンがパイエケス人を罰する [ポセイドン](#)は[ゼウス](#)に、つつがなく[オデュッセウス](#)を[イタケ](#)へ送り、多量の財宝を与えた[パイエケス](#)人への不満をもらした。ポセイドンは彼らの船を撃ち砕き、国の周りに高山をめぐるすつもりであった。ゼウスは彼らの船を石に変えてしまうのがよからうと言い、高山をめぐるのを止めさせた。ポセイドンが船を石に変えて沈めると、パイエケス人はそれを見て恐れをなし、ポセイドンに生贄を供して祈った。

オデュッセウスはアテナに会う [オデュッセウス](#)は目をさまし、自分のいる場所が分からず途方に暮れた。[アテナ](#)が若い男に扮してそこに近づいた。オデュッセウスはここがいかなる土地か訊ね、アテナはここが[イタケ](#)であると答えた。彼は内心喜んだが、慎重に自分の感情を隠し、自分は亡命の身であり、[ピュロス](#)か[エリス](#)地方を目指していた船を進めていたが、強風で流されてこの地へ着いたと言った。アテナは女神の正体を現し、帰国してもなお策謀をやめない彼に呆れ、彼にこれから待ち受ける苦難を語りきたことを言った。

オデュッセウス豚飼に会いに行く 女神と[オデュッセウス](#)は財宝を洞窟に隠した。[アテナ](#)は屋敷にのさばる求婚者たちを倒す計略を考えるよう彼に助言すると、彼を老人の乞食の姿に変えて、最初に豚飼いの[エウマイオス](#)を訪ねるよう言った。彼が豚飼いの所へ向かうと、アテナは[テレマコス](#)を迎えに[スパルタ](#)へ向かった。

関連

人名

(作成中)

地名

(作成中)

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)